フェアトレード商品生産者の国を旅しよう。

今回の国は・・・・サワッディーカー！タイです！

早速クイズですが、
右の写真は一体何を作っているところでしょう？
読み進めて頂くと答えが分かります・・・

今回巡るところ

＜タイ　基本情報＞
面積：51.4 ㎢（日本の約 1.4 倍）
人口：約６，６００万人
宗教：仏教徒　約９４％、イスラム教徒　約５％
言語：公用語はタイ語。
その他山岳少数民族などの言語があります。
経済：２０１２年の GDP は約３，６５０億ドル。
一人当たり GDP は 5,382 ドル

タイ・クラフト生産者に会いに
タイ北部のランプーン県、長閑なカレン族の村へ
まずはアジアの大都市バンコクへ！タイ・クラフトのオフィスを訪ねます。

―　Thai Craft（タイ・クラフト）とは
１９９２年に独立した組織として設立以来、タイ国内で約７０もの生産者団体と関わり、洋服、アクセサリー、籠製品など何千もの手工芸品を扱っているフェアトレード NGO。生産者団体は、北部の山岳民族や都心部のスラム、深南部の漁村の人々など、支援がなかなか行き届きにくい場所の団体です。ホテルなどの施設でフェアを開催したり、シサム工房のような海外のお客さんと取引をして、手工芸品を販売しています。
タイ・クラフトの設立から運営、タイ国内のフェアトレード普及を担ってきたのは、チェンマイ出身タイ人のスワディさんと、イギリス人のステファンさんというご夫妻。

— カレン族の村へ

バンコクからチェンマイまで飛行機で1時間強、そこからバスでくねった山道を南に約2時間行くと、
ランプーン県リー郡の生産者の村へたどり着きます。
村には2000家族以上が住み、農業を中心とし、仏教を主な信仰とする長閑な生活をしています。
タイ語よりもカレン語の方が多く飛び交い、民族衣装を着た人も多くいます。

ここに、シルバーアクセサリー生産者団体のグループリーダー、エカチャイさんが住んでいます。
エカチャイさんは実はカレン民族ではなく、ラワーという民族の人。
結婚を機にこの村にきて、シルバーづくりを義理のお父さんから学びました。
生産者グループをまとめる村のキーパーソンである一方、2児の良き父親でもあります。

生産者さんたちは、畑をもって農業をするなど別の仕事をしていることも多く、
互いの畑仕事を手伝うなど、日常生活でも助け合っています。

村では、農業ではまかなえきれない教育や医療などの費用を稼ぐため、バンコクや海外の建設労働に出稼ぎに出る人が増えています。そんな中、村にとどまり、農業を続けながらシルバーアクセサリーをつくることは、民族の伝統技術を継承にもなり、とても意義のある事のように思えます。
一方、最近では銀の価格高騰で、なかなか生産を続けることが厳しいという現状があります。

以前は村の中でシルバーのパーツなどをつくる職人さんがあちこちにいましたが、シルバーが売れなくなり、
現在ではアクセサリーづくりの全行程を行っている生産者は、エカチャイさんだけ。
しかし、エカチャイさんはこのような難しい状況でも、
シルバーアクセサリーづくりをずっと続けたいと断言します。
そのためにタイ・クラフトは、1年間、固定の価格を保証することでバイヤーが買いやすいよう工夫したり、
国内に向けて販路を増やしたりしています。

— tibit のアクセサリーができるまで

例えば、右の写真の
「**水紋ひとつぶブレスレット**」を作るには・・・

1. まず、粒状のシルバーを火にかけて柔らかくし、棒状や細いワイヤー状にして使います。
2. 棒状のシルバーを厚さを決めてハンマーで叩き、薄く伸ばします。
3. 模様をつけるスタンプは、木を彫って作ります。村にはスタンプ屋さんもあります。
   先ほど伸ばしたシルバーをクッキー型のようなもので丸く打ち抜き、スタンプで模様を押せば、
   水紋パーツの完成です。

5. 続いてこちらは、ビーズづくり。写真左ののビーズは**約 1 ㎜程**。

これ、どうやって作ってると思います？？実は、これも一つ一つ手作業！

冒頭の写真クイズの答えは、ビーズづくりでした！

ビーズのもっと詳しい作りかたは　→　こちら

6. それを一つ一つ、また糸に通して、そうやってブレスレットが完成します。途方もない作業です。

そうして私たちの手元に商品が届きます！

＜番外編＞

タイへの旅の終わりに、タイのおいしいもの　＆　ファッションスナップをご紹介♪

タイの家庭料理は野菜たっぷりのメニュー！辛いか辛くないかは、作り手によって違うようです。

村ではおばあちゃんでもショッキングピンクのスカート！左の人は tibit のピアスをつけてくれています。